

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろんな考えがあるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 772

2025年12月9日

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- | | |
|-----------------|----|
| • ゆうちょ裁判敗訴の驚き | 2 |
| • 消費者団体事務局で働く日々 | 4 |
| • くらしのアナキズム | 6 |
| • 「鶴見俊輔」ほか | 8 |
| • お便りから | 12 |
| • 山仕事 (11月・太平) | 24 |
| • け・い・じ・ばん | 26 |



泉ゆきを『心はいつも山頭火』
(日本習字普及会)

メール配信をご希望の方は、

<suzukikosei.san@gmail.com>へ。

三宅伊都子さんが

応対していただきます。



題 字 故 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 故 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、ななだけ。

山仕事(11月、大平)

11月25日(火)、雨もよう。富士山見えず!

敷地駅で久米、若林さんに迎えられ、深澤明男・富士代さんの「豊岡農園」へ。正士さんが亡くなって、もうミカンはだめかと思っていたが、宮川早生を20kgほども下さった。品不足で断れることが多いのに、ありがたいこと。作業中、のどの乾きをいやすのに何よりです。

残念ながら雨がやまず、沈殿。早めに、袋井市の「和(やわらぎ)の湯」へ。

今回から、久米さんがチーフとなって、東江さんと調べてくれた夕食は、

(夕) タラちり鍋、豚じん(信・遠国境境辺の名物で、肉に味がついていて、野菜と炒めると即おいしい一品。肉が鶏肉なら、とりじん)、もやし、ザ・サイ炒め、大根皮のきんぴら、薄場産原木シイタケの炭火焼、巨もやし漬とノパン(久米さんが友人から頂いたもの)。青山さんから次郎柿。

ぼくは、母屋で寝る。寒くなってきたので、かみさんが椅子に座るときに使っていたらしい、小さくてうすい電気行火を足元に入れて。

11月26日(水)、快晴。斎藤俊行さん、大田さん(元気里山)が参加。原田、山崎、竹中、若林さんとぼくの7人体制に。昨日が雨で、そのおかしな寄せられるので大助かりだ。

午前、坂上利子さん①の家まわり、柿園の草刈り。さすがに早く終り、浅岡さんの水田跡②と西田さんの籾土部分③も終らせる。元気な西田さんだが、71歳となり、頼むとのこと。それでも、腰は曲がらず元気に歩いておられる。

(昼) いなり寿司、玉子焼、ホウレンソウとエノキ茸のお浸し、きのこ汁、ザ・サイ漬け。

午後、東垂れ④の草刈りとツツジのつる草とり。人手が揃うと仕事が早い。終了間際、竹中さんが鉈で手を切る。幸い、小ケガ。

山本真由美さん(地域おこし協力隊)が、浜松銘菓「うなぎパイ」持参で励まみに来てくれた。来春で任期満了とのことだが、地域に根付いてくれるとよいが。斎藤さんから純米吟醸 越後秘、エビ芋煮、シシウ煮を頂く。

この日も「和の湯」のあと、啓史さんが加わり夕食。青山さんは、隣家の不幸で来られず。

(夕) 豚ばらと大根煮、テンゲン菜と海鮮の中華風炒め、長芋のカレット、けんちん汁、里芋のきぬかつぎ(すでに脱衣済)、白菜と厚揚げのスキ肉あんかけと稲荷寿司。



食後懇談。会話を逐うにつれて打解け、この夜はほぼ完全に心と眠らせてくれた。
これは、仲に立った久米さんのおかげが大きい。
斎藤さんと母屋に寝る。

11月27日(木)、晴のちくもり。斎藤さん、ぼくが気づかぬ早朝に帰宅。またね。
朝食後、ガソリンなどの買い出しに山崎さんと若林さんが出かけた後、啓史
さん、原田さんと三名で東垂れへ。ツツジと梅園の上を池谷さんちに近づいて
るNTTと有線?の電線が、桜の梢にかかっているのを整理してほしいと言わ
れたのだ。簡単だと思ったが、電線の上に引っかけようようにのびた枝
があり、かかったまま枝を落とすと、弱そうな有線の電線を傷めそ
うだ。NTTに処理を依頼してみても、だめなら改めて考えることにな
った。ぼくとしては、工夫すればできそうなのでやってみたいところだが。

作業は、啓史さんも加わり、そば畑⑤の草刈り。買物帰りの二名も加わり、
11時過ぎに終了。

その間に、水窪(みさくぼ)の昔乙女(舟屋、熊谷、竹中、中谷さん)が、ご馳走
持参で来てくれた。熊谷さんによると、頂いてぼくが勝手に
「夏ねこ」と名付けた品は、「みの」と呼んでいるそうだ。

(昼) シシ鍋(地元の猟師がとったイノシシ肉を、竹中さんが)、
牡蠣とイカのフライ(ぼくは、特にカキフライを多く頂いた。ご馳走
さま)、大根のなます、大豆の煮豆、メカバ、野沢菜漬にようめい。

ちと、おにぎりだった。いつも、ありがとうございます。

少し、お世話だった。正士さん宅の庭先で水窪の昔乙女と久米さんに見送ら
れ、若林さんに敷地駅まで送ってもらって帰宅。

竹中さん、次はクマに会わせてね。

